

長崎高教組新聞

発行
〒850-0013 長崎市中央2丁目2番5号
長崎高教組会館 長崎県高等学校教職員組合
☎ (095) 827-5382
FAX (095) 826-2976
編集責任者 平井秀治
一部 10円

高教組メールアドレス
info@nagasaki-kokyoso.org

労働条件を改善し、笑顔で働くことができる職場づくりのためのアンケート

高教組は現在、各職場で「教職員の労働条件を改善し、笑顔で働くことができる職場づくりのためのアンケート」(A3版表裏印刷)にとりくんでいます。

アンケートは、「県教委に対する要求」と「職場内の問題に関する要求」及び「12春闘 全教・教組共闘の教職員要求・意識アンケート」の3つからなるもの。

いままでにあげられてきた「新人戦以外の公式戦も振替できるように」「文化部の引率も振替対象に」などの強い要望は、この4月から振替がほぼできるようになりました。

また、「人生の達人セミナー」の報告や「就職内定状況調査」の簡素化

県教委への要求・職場内の要求・全国へ届ける要求 集約中

「あたたかい、顔の見える運動」の推進

も現場からの要求に基づく交渉の結果によるものです。

こうした点に確信を持って、さらに願いや要望を掘り起こし高教組の要求に練り上げて行くことが大事です。

「職場内の問題に関する要求」の分野は、各職場と連絡を取りつつ該



養護教諭のつどい
2011年度
養護教諭のつどい
長崎県立高等学校教職員組合

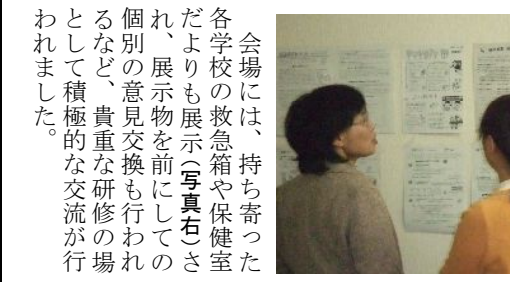
みんなのお仕事拝見

未組3人を含む16人参加で交流

養護教諭専門委員会として、1月7日、11年度統計ソフトなどについて、の養護教諭のつどい(写真)を大村市民会館で開催し、未組合員3人を含む16人が参加。

つどいでは、午前中、「みんなのお仕事拝見」の松本和昭准教授を講師として、救急処置、救急箱に準備

養護教諭のつどい



会場には、持ち寄った各学校の救急箱や保健室だよりも展示(写真)され、展示物を前にしての個別の意見交換も行われ、貴重な研修の場として積極的な交流が行われました。

「300人対話 30人加入」

年度末に向かう今、現給保障廃止問題等での交渉成果に確信を持ち、新しい仲間を長崎高教組に迎えよう

この管理職や県教委講演などを行っていきます。

こうしたアンケートのとおりくみは「あたたかい、顔の見える長崎高教組運動」のとりくみの大事なひとつです。職場で重視してとりくみを行って

講演をうけました。

講演では、参加者全員にそれぞれの経験をふまえて話をしてもらいながら、様々な実践例の紹介も交えて、「開かれた学校」とはどんな学校か、学校・家庭・地域の「いい関係」をどうやってつくっていくかが語られました。

高教組の埋蔵文化財センター分会は、昨年の高肩代わりについて、教組の機関会議で、その勤務実態と問題点を明らかにしました。

この程同分会は、問題の改善に向けて、学芸文化課及び埋蔵文化財センター等で文化財保護主事を「兼務」している教職員(7人)を対象にアンケート調査にとりくみまし

高教組は、「文化財保護行政の専門職員の採用を大幅に増やすなどして、教職員に『兼務』をなくすこと」を中心に置き、

「当面、教職員に『兼務』を命じざるを得ない場合」は、「学校現場から問題点が明らかになり、担当する業務内容及び処遇を説明し、本人の了承を得ること」など3点にわたって要求することにしました。

要求書は1月中旬まで、県教委に提出し、交

子どもと教育を考えるつどい

*テーマ 新教科書を考える
子どもにとって良い教科書とはどのような教科書でしょうか。交流を通して考えたい(入場無料)

*日時 2月12日(日) 13時

*場所 長崎県教育文化会館2階

93歳の教育研究者・太田堯の挑戦 記録映画「かすかな光」上映

ちがう かかわる

*日時 3月20日(火・祝日) ①11時/②14時

*場所 長崎市ブリックホール国際会場

*前売り券 1000円 高教組書記局にあり

人間らしく働ける社会をしよう

長崎県共闘会議 旗開きと新春街頭宣伝行動



『構造改革』の政治に終止符を打ち、日本全国どこで暮らしても安心して、健康で文化的な生活を送る社会をつくりたい」と述べ、共同のたたかいで国民・県民運動を進展させようという呼びかけがなされた。

各団体からの決意表明では、昨年から春闘共闘に参加した私教連や長崎ビジョン労組(NIB)の番組制作会社(の労組)、長崎大学医系職員組合などが、それぞれのとりくみ

県労連や長崎新聞労組、三菱長船労組などで組織する長崎県春闘共闘会議(以下、春闘共闘)は、1月5日、長崎市の勤労福祉会館で12年新春旗開き(写真右)を開催、加盟労組などから85人が参加しました。高教組からは執行部3人と深松長崎支部長の4人が参加。塩塚二郎春闘共闘議長(県労連議長)は開会の挨拶で、「空前の国民的災厄が拡大され、先の見えない閉塞感にいらだちが募る一方だが、私たちの力でなんとかして



馬場書記長(左)と高教組の参加者

み状況を述べ、高教組は馬場書記長が「現給保障廃止などの攻撃に押し返り、粘り強く闘う」と決意を表明しました。

旗開きで春闘の決意を固めあつた春闘共闘は、さつそく10日早

朝、長崎・佐世保・諫早・大村のJR駅頭などで新春街頭宣伝活動にとり組み、合計60人が参加しました。

宣伝活動では「雇用と仕事、賃上げ、社会保障の拡充でみんなを元気に！」と訴えながら、1420枚のチラシを配布しました。高教組からは各地に合計12人が参加



写真右は、諫早駅前での新春宣伝行動の参加者

考査期間中の会議・研修をなくしてほしい

○指導と言うことで、学受付や報告のため過重労働を回り、研究授業、授業を強制している。職員が少くないため、振替もできない。定時制の受付け指導は不要、準備に等しい。定時制の時間帯に実施できるような改善すべきです。(長崎支部・40代・男)

○全日制も定時制もすべての学校で多忙化の解消を本気で考えなければならぬと思う。そのためにも、模試や補習などを減らすか、教育予算を増やして教職員を増やすか手立てを考え、実行するしかない。(大村支部・50代・男)

シリーズ6 教育行政に関わる意見(2)

○「石木ダム」、長崎新幹線などなどに県予算を熱心に組む(支出する)よりも、「学級の定員を1日も早く「35、30人学級」とすべし。そして、教員定数をこれに合わせて増やすべきである。

○「先の大阪市立高等学校教職員組合からの賀状、後を続けよう。」「先の選挙での平松五二万票、橋下七五万票という教は、二つの大きな民意があります。一つは、暮らした教育をよくするために大阪市を変えたいという思い、もう一つは、橋下の暴走を止めて、暮らしや教育を破壊しないで欲しいという思いでは法や人権を何よりも大事にしたいという思いが、この人や、こそこでは同じことばを何よりも大事にする。そこで当面私たちが原都知事は、反対されるかと相手は「バカ」呼ばわりして切り捨てる。醜い手法である。



醜い手法と対決せねば

「テレビのインタビューに答えた大阪府職員が、橋下新市長を批判したと特定され、事情聴取の後、反省文を求められました。市役所内の労組では、市役所前までビラをまくと処分されるのではと危惧している人も始まっています。」と書き始

ある。年休消化状況の実態調査も行ってよいのでは。(長崎支部・40代・男)

○給料を下げないでほしい。免許更新制の廃止を国に求めてほしい。授業評価のあり方を考えてほしい。一記名式で責任を持つてさせるべき。(大村支部・30代・女)

ポータルサイトで運用で人間関係が希薄に

○メールになってから、安易に様々な報告、調査を行うようになった。特に4、5月は毎日何かのメッセに追われて、残業の毎日だった。また、エコ関係の細かい項目、プロジェクトの運用ははじめたが、削減に役立つのか、たしかにNEWSの便利さは否定しないが、効果には疑問。連絡、報告できるようなものもあつたりするのだから人間関係が薄くなるように目的で調査依頼